

竹の利活用技術・事業 紹介シート

No. IV-1

<p>活動事業 の名称</p>	<p>薩摩川内市竹バイオマス産業都市協議会</p>
<p>活動事業の 概要及び特徴</p>	<p>「タケの力をマチの力に」を合言葉に 既存の竹収集・処理の仕組み(年間20,000t)を「他にはない強み」と捉えた上で、効率的かつ徹底的な「竹」の利活用による産業振興や雇用創出、エネルギー利用等による新しい社会システムの構築によって持続可能な地域モデルの確立を目指す。</p> <p>本協議会では多方面に行っている竹資源の有効活用の1つの方向性としてACC(水中カウンターコリジョン)法による竹CNF(セルロースナノファイバー)の利活用を進めている。本市立地の中越パルプ工業(株)(ACC法竹CNFの製造元)及び、多くの市内外企業と連携し、地域経済の活性化を目指している。</p>
<p>活動範囲・時期</p>	<p>竹を資源とする産業の上流から下流までを視野に入れた産業振興と地域活性化を目指す全体システムが対象</p>
<p>その他</p>	<p>70社以上のメンバーと共に、最先端材料利用から竹収集、加工処理まで、次の5つの分科会にて開発や事業化を推進</p> <p>(1)産業用高機能材料分科会 (2)生活市場向け製品分科会 (3)竹セルロースナノファイバー活用促進分科会 (4)竹バイオマス・エネルギー分科会 (5)竹の収集・処理地域システム分科会</p>
<p>活動状況写真、 活動実績グラフ 等</p>	<p>地域資源&地域課題である竹の利活用を、低炭素社会への貢献、地域の特性、さらに地域を越えた広がりも考慮しつつ推進</p> <p>【上流(里山・里地)の抱える問題点】 ・林業の衰退と担い手不足 ・コミュニティの担い手不足、維持費用不足 ・杉等の間伐材放置と竹群生の拡大と深刻化(竹害) ・里山の環境の悪化と獣害(猪、鹿等)被害の悪化</p> <p>薩摩の竹を使う林業の事業性向上と雇用づくり 里山保全による獣害の鎮静化とコミュニティ再生</p> <p>安価で使いやすい次世代エネルギーの活用 効果的な整備・育成 群生し成長の早い竹の活用 竹林の整備・育成 枝葉の利活用 竹の伐採・収集 効率的かつ軽負担な伐採・収集</p> <p>【下流(事業性・ビジネス)の課題】 ・対海外製品・素材に比べ高コスト ・同様の製品等が多数、競争激しい</p> <p>安価で使いやすいエネルギー利用 バイオマスエネルギー化 地域特性を活かし、社会ニーズを踏まえ付加価値の高い産業の創出へ</p> <p>竹資源を活用した産業振興・雇用創出 竹マイクロファイバー 多様な用途に向けた研究開発と資材化 二次加工、資材化 竹繊維の目的に応じた加工と多面的利用 企業 大学</p> <p>多様な用途に向けた資材化 一次加工、資材化 製材工場 チップ工場 チップ パルプ材の原料、竹炭・竹酢液、ペレットストーブ等の原料等</p>
<p>連絡先</p>	<p>薩摩川内市竹バイオマス産業都市協議会事務局 (薩摩川内市 商工観光部 次世代エネルギー課内)</p> <p>住所: 〒 895-8650 鹿児島県薩摩川内市神田町3番22号</p> <p>電話: 0996-23-5111 (代表)</p> <p>E-Mail: info@take-bio.com</p>